

## まえがき

はじめまして。婚活スクール名古屋 Tomo marriage 代表、田口 知です。私は中学生の頃から、芸能界に憧れてプロダクションに所属し、演技やウォーキング、メイクのレッスンを積み、地元の情報番組の MC や雑誌モデルを経験しました。そのあと事務所を離れ、昼は理容師の専門学校、夜はラウンジで働きながらオーディションを受けに東京へ行く日々を過ごしていました。私が高校生の頃、世間はカリスマ美容師ブームでした。当時付き合っていた彼氏が美容師の専門学校に行くと言うので、そんな女の子ばかりのところに行くのなら、私は男ばかりの理容師の専門学校に行つてやる！ と、今考えれば恥ずかしくなるほどの不純な動機で、理容師の専門学校に入学したのです。その彼とは入学早々すれ違いからお別れしましたが、私は一度やると決めたことはやり遂げるタイプなので、そのあと資格を取るべく勉強や練習に励み、無事理容師免許を取得しました。美容師と理容師の大きな違いは、カミソリが扱えるか否かです。女性が顔そりをすると、化粧のノリがよく

なりますし、ブライダルエステとして背中や襟足のシェービングをすることも理容師だからできるサービスです。最近では理容師の人数が減少傾向にあるので、私のような女性の理容師は大変重宝されました。しかし、もともとつと一日を充実させたい！ と思ひ、昼は理容師、夜はラウンジで働き、若かったので睡眠時間もつたいたいと思うほど、毎日がキラキラしていました。

そんな中、ナンバーワンキャバクラ嬢として某恋愛バラエティ番組に出演が決まり、世界を旅することになったのです。行ったこともない国で他人と共同生活をする。この経験は、その後の私の人生や人格に大きな影響を与えるものとなりました。今までの自分の価値観が、とても狭い世界の中での考え方だったこと、先入観や思い込みが自分の行動にブレーキをかけていたことなど、視野を広げたことで、自分の「器」が大きくなったような気がしました。そして、共同生活をする中で相手に合わせることは我慢をすることではなく、結果的に自分にとつても心地よい雰囲気を作る術だということを知り、その後のコミュニケーション能力の向上、結婚生活にもとても役立ちました。

帰国してからの私は、もつと人として成長したいと思うようになり、興味のあるものにはなんでも挑戦しました。それまでは素人のギャンブル感覚でやっていた株式投資を基礎から勉強し、セミナーにも参加しました。そのセミナーでは株式投資はもちろんのこと、人にわかりやすく伝えるテクニクや、飽きさせない工夫も学ぶことができました。自分の中に知識を入れていけばいくほど会話の幅が広がり、引き出しが増え、気が付けば本当に、当時勤めていたラウンジのナンバーワンになっていました。著名人がよく来店する高級店だったので、まだ若かった私には、ハイステータスの人を相手に、いかにナチュラルに接することができるかが腕の見せどころでした。背伸びして、浅い知識を知ったかぶりをして披露するのではなく、「あなたの興味があるものに私も興味があります！ ぜひお話を聞かせてください」という姿勢で臨めば、1時間も2時間も喜んで教えてくれます。

そして、誰もが知っている大物芸能人が、大勢の取り巻きを従えて来店したときのこと。王様のように周りに扱われている彼に「なんかさみしそうだね」と一発目にタメ口の「暴言」を吐くと、彼は「おもしろい子だね。気に入った」と言って、若い頃の自分の話をしてくれました。遠くを見つめながら、時折少し涙ぐんでいました。この「超大物に、なんかさみしそうだね作戦」は私の専売特許のようになり、薄暗いお店に毎回帽子とサンングラ

スを身に着けて来る、人見知りの超有名アイドルも気を許して話してくれました。これが自信になり、私は誰とでも仲良くなれる不思議なパワーを持っているのではないかと、本気で思ったほどでした。

しかし、それから数カ月が経ち番組の放送が始まると、私の生活は一変しました。ネットではありもしない噂話がまことしやかに飛び交い、どこに行っても声をかけられ、写真を撮られました。しかし、人のうわさも七十五日とはよく言ったもので、出演の回が終わってしばらくすると、声をかけられることも極端に減りました。世間の人に興味があるのは「その番組に出ている私」であると感じたのです。でも、その「看板」をとった本当の私に、いつものように接してくれる友人や、まったくその番組のことを知らない人たちに、本当に助けられました。それまで人見知りの「ひ」の字もない、人と話すことが大好きだった私が人間不信になりかけていたのですから。

もう散々、人というものを知り尽くしたと悟った私は、23歳のときに結婚相談所に入会しました。今でこそ婚活ブームですが、その当時は23歳で結婚相談所に入会するなんて、

少し珍しいのではないかと思います。約40万円の入会金を払い、早速婚活をスタート……  
と思いきや、入会するまではあんなにも熱心だったカウンセラーからの連絡はばたりとなくなり、定期的に来るパーティーの案内と男性のプロフィールで、突然のセルフサービス婚活が始まったのです。しかし、手厚いサポートなどなくとも、持ち前の明るさと仕事で培った男性分析の傾向と対策を武器に、たまたま友人に誘われて参加したパーティーで、見事ドクターの彼をゲットしたのです。40万円の出費は痛かったけれど、費用対効果としては抜群。これこそが最高の自己投資だと自負していました。昔から人が右に行くなら左に行ってみたくなる性格だったので、「自分だけが知る裏ワザ」を発見したかのように思えて、誰にも教えたくないくらいの心境にいたりしました。それもそのはず、今でもそうですが、世間の結婚相談所のイメージは「最終的にお世話になるところ」や「〇〇歳までに結婚できなかつたら考えるところ」そんなイメージではないでしょうか？ もちろん、パーティーに参加している人の中には「それっぽい人」もたくさんいます。もう3年目、4年目なんていう人もいました。しかし、そんな人ばかりではありません。

普通に生活していてモテる人は、フィールドを変えても当然モテます。そのフィールドが

結婚したい人の集まりだとすれば、その人は普通に生活しているときの数倍モテるようになります。しかも結婚相手としての属性もいい人だからです。真剣に結婚したいと思っている人ばかりなので、気が合えば話は早いです。そして、あらかじめ相手のプロフィールを見ているので、基本的な情報はもちろんのこと、年収や学歴、家族の状況、相手に求める条件など本人に聞く必要がありません。この効率のよさは結婚相談所の特徴だと思います。この効率のよさを知っているから、駆け込んできてくれるのはうれしいけれど、もつと若いころにこの選択肢をチョイスしてくれていたら、もつと出会いの幅は広まっただろうと思います。Tomo marriageを始めてから本当によく感じることです。

まだ若いから大丈夫。なんて根拠のない自信を持つことは悪いことはありません。自然な出会いはみんなが理想とするところです。でも、実は妻帯者だったとか、年齢、職業、年収が嘘だった！なんてトラブルは自然な出会いだからそのリスクでもあります。嘘が発覚しても、誰に文句が言えるわけでもありません。その人に費やした時間を無駄だったと考えるか、お勉強と考えるかは自由ですが、Tomo marriageではありません。なぜかという、入会時に独身証明書、収入証明書、大学などの卒業証明書、住民票の提出を

義務づけており、1枚でも足りなければ入会できないからです。I B J（日本結婚相談所連盟）の優良加盟店として、会員の皆様に安心して婚活をしていただける環境を整えています。I B Jには2016年11月現在、約58000人の会員様が登録しています。自宅のパソコンやスマートフォンから利用することができる、独自のシステムはとも使いやすく、いつでもどこでも「婚活」することができます。この日本最大級のネットワークを生かして、会員様の運命のお相手を見つけるお手伝いをしているわけですが、やはり本人のモチベーションや「婚活スキル」で、お見合いやパーティーの勝率は大きく変わります。

Tomomarrriageは婚活スクールです。自己流婚活がうまくいかない理由は、第三者から見ないとわからないものです。それを指摘してくれる人はいますか？ 30歳、40歳にもなつて他人に自分の性格を直せと言われても、受け入れられないのは当然です。私は「婚活スキル」を磨くためのアドバイスをしています。たとえば、ちよつとした仕草や気遣い、相槌や表情、メールの仕方やタイミングなどです。あなたはこれから一生をとにもするパートナーを見つけてるのです。それくらいなら、変えられると思いませんか？

Tomo marriageでは会員様はお客様ではありません。成婚を目指してともに歩むパートナーです。ネット婚活や大手にはない、一人ひとりに合ったアドバイスをいつでも親身になって、時には厳しくしています。それはすべてあなたを思つてのことです。私はあなたのモヤモヤだけでなく、それを乗り越える苦労も、乗り越えたあとの喜びもわかっています。うれしいことに、最近では東京や大阪から私に会いに来てくれる会員様もいます。お別れするときはいつでもビッグハグで元気をチャージしています！ 類は友を呼び、私は今日も幸せ、愛されオーラ全開で皆様を応援しています。

さあ、うまくいかない婚活は今日で終わりです。「なんで私が一人なの?」「私のどこが悪いのよ!？」と思つている人や、「もう疲れちゃった。傷つきたくない」と思つている人に、少しでも前向きに婚活のモチベーションをアップしてもらえたらうれしいです。自分のことを棚上げて「いい人がいない」なんて言つている場合じゃないのです! 「選ぶ」をやめれば「選ばれる女性」になれます。あなたが本当にそうなれたとき、そこにおまけとしてステータスがついてくるのです。